

人文論集 第六一号 (二〇二二)

目次

論文

鈴木忠志論の余白に (一)	岡田 素之	1
「見者」としての画家がたどる旅路		
—— マックス・エルンストと北アメリカ先住民族の文化	谷 昌親	15
口承文芸としての宣卷と明末清初の宝卷	辻 リン	41
吉本隆明論―三つの主題とその行方 (第1回)	吉田 裕	65
荒川修作再入門——「天命反転」建築へのパサージュとしての『意味のメカニズム』	塚原 史	218
研究・教育業績紹介 (二〇二二年一月―二月)		226
紹介 私の研究		252